

陳情 4 第 10 号

議題

青梅市立美術館での展示作品の選定に関する陳情

趣旨

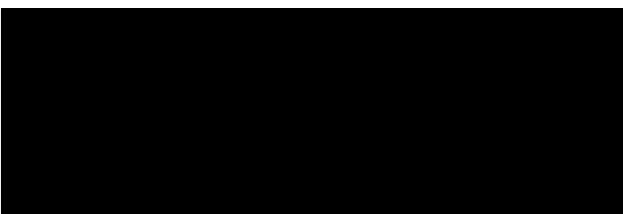
今年になって、2月の小島善太郎氏と4月の栗原一郎氏の作品をそれぞれ複数回鑑賞させていただきました。担当された方々のご苦勞の成果が展覧会として結実しているのだと思い、感謝の念を抱きます。私が参観したのは週日の午後であったためか入場者は3、4名といつも少なく、なぜこれほど入場者が少ないのかと思わないわけではありませんでした。週末にはこれよりは多い参観者を望めるのでしょうか、入場者が少ないのはそれだけではないように思われます。その原因の一つに展示絵画がマニアック過ぎるのではないかと思われます。青梅市市立美術館は公立美術館でもあり、それほど芸術の殿堂ぶりを発揮することなく市内や近隣の老若男女にもっと広範囲に親んでもらうポピュラーな作品の展示も加えるべきではないかと考えるのです。

青梅市の美術館の入場者はコロナ禍以前では年平均1万人程度ですが、他市での活動に目を転じると八王子市立夢美術館では年間入場者は3万人、府中市立美術館では10万人で、会場の規模の違いがあったとしても青梅市よりも活発な活動を展開しているように想像されます。青梅市にも年間入場者を現在の1万人からせめて2万人程度までに増やすような企画案はないのでしょうか。

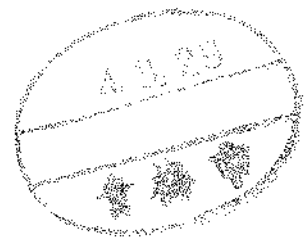
ポピュラーな作品展を毎年開催するのは困難な事情もあるでしょうが、隔年のペースでもこれを実行できれば他区市の美術館の例にみるように、親しみの持てる市立美術館に変身するのではないかと期待するところです。例えばそのような展覧会での展示作品は童話の挿絵などを意味していますが、多くの市民が子供だった頃に親しんだ童画に再会する機会を提供することになります。一つの例として最近まで開催されていた三重県立美術館の「いわさきちひろ展」があります。ご参考までにそのチラシを添付しています。

上記のとおり陳情いたします。

令和4年8月29日



青梅市議会議員 鴨居幸泰殿



青梅市立美術館の活動 (2016年～2000年)

令和4年7月30日

年度	展示会					展示品内容	展示 日数	来場者数		維持費用 (千円)
	企画展	特別展	館蔵展	その他	計			自館展示	貸出展示	
2020		1	3		4	特別展：五百城文蔵 (但し 中止)	127	2.766	1.244	68.781
						館蔵展：銅版画、山景、宮本十久一				
						その他：なし				
2019		1	2	2	5	特別展：中島潔	199	12.092	4.806	67.738
						館蔵展：佐藤多持、裸体画、				
						その他：アートビューイング、小学校造形作品				
2018	4	1		1	6	企画展：夏目利政、西多摩を描く1 & 2、城所祥	200	18.243	7.756	66.329
						特別展：ダンボールアート				
						その他：小学校造形作品				
2017	3	1		1	5	企画展：鳥を描く、輝く女性、高柳裕	185	9.348	4.551	61.347
						特別展：谷内六郎				
						その他：小学校造形作品				
2016	3	1		3	7	企画展：水の芸術、山の日、目	234	10.089	8.197	28.666
						特別展：映画ポスター				
						その他：梅に捧げる、小学校造形作品、Biennale				

(注)

* 2015年以前の報告書はなし。但し2015年5月11日の行財政改革推進委員会に下記の報告がある。

観覧料、美術館使用料、図書販売料として239,2万円の収入、経費とし6,527万7千円を支出したが、

その内訳は管理費関係で3,219万3千円、事業・運営経費関係で3,308万4千円であった。活動の内容は不明。

* 維持経費に関しては「まるごとアート支援事業」の経費、その他の施設費を除き、あくまで美術館の運営経費に絞ってある。

* 館蔵展も企画展も美術館が所蔵する作品を利用しての展示とは考えられるが、ここは行政報告書の分類に従って分類した。

開館40周年記念

いあさき ちひろ展

—中谷泰を師として

2022年

7月16日(土) —

— 8月28日(日)

— やさしい、まよひのこ —



観覧料 一般 1000(800)円 学生 800(600)円 高校生以下無料

- ・(一)内は前売りおよび20名以上の団体割引料金
- ・この料金で、「美術館のコレクション」柳原義達記念館もご覧いただけます。
- ・生徒・学生の方は生徒手帳・学生証等をご提示ください。
- ・障害者手帳等(アプリ含む)をお持ちの方および付き添いの方1名は観覧無料。
- ・教育活動の一環として県内学校(小・中・高・特支)および相当施設が来館する場合、引率者も観覧無料(要申請)。
- ・毎月第3日曜の「家庭の日」(7月17日、8月21日)は団体割引料金でご覧いただけます。
- ・主な前売券販売所…チケットぴあ、セブンイレブン他
- ・来館の際は、マスクの着用等、感染症の予防にご協力ください。
- ・また、今後の状況に依り、掲載内容に変更が生じる場合があります。
- ・最新の情報は当館ウェブサイトをご覧ください。

《赤い帽子の男の子》1971年 ちひろ美術館蔵

三重県立美術館 Mie Prefectural Art Museum 40

IWASAKI Chihiro & NAKATANI Tai

開館時間…午前9時30分—午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日…毎週月曜日(ただし7月18日は開館)、7月19日(火)

主催…三重県立美術館、ちひろ美術館、中日新聞社

助成…公益財団法人岡田文化財団、公益財団法人三重県立美術館協力会

協賛…井村屋グループ、岡三証券株式会社、株式会社三十三銀行

中部電力パワーグリッド株式会社、日本トランスシフト株式会社

株式会社百五銀行、三重交通グループホールディングス株式会社、有限会社和田金

桑名三重信用金庫、北伊勢上野信用金庫、津信用金庫、紀北信用金庫

協力…近畿日本鉄道株式会社

— やさしい、まなざし —

にじんだ色彩で描かれた子どもたちや花々のすがた。いわさきちひろが描く明るく、甘く、やわらかな絵画世界は、国や世代、性別などあらゆるものを越えてひろく愛され続けています。

ちひろが絵本画家として歩み始める以前のこと。いわば模索期にあたる1940年代前半に、ある画家との出会いがありました。その名は、中谷泰。ちひろは中谷の作品に感化され、中谷のもとで油彩画の指導を受けまし

た。戦争により彼らの芸術活動は中断を余儀なくされますが、戦後、いわさきちひろは童画家として、中谷泰は洋画家として、活躍の幅を広げていきました。

厳密に言えば、ふたりの師弟関係はわずか1~2年ほどの期間でしたが、その交流は生涯を通じて続きました。愛すべきものに向けるまなざしのやさしさは、表現するジャンルは異なるものの、彼らふたりのどの作品にもあふれています。本展では、これまであまり知られてこなかったふたりの交流を、いわさきちひろの絵本の原画や油彩画、素描等約110点、中谷泰の油彩画・素描等約40点、関連資料約20点によりご紹介します。



いわさきちひろ《なでしこあざみ》
1940年代前半



いわさきちひろ《五つぷのえんとどう豆》
1972年



いわさきちひろ《月を見る少年》
1970年



中谷泰《水浴》
1942年 東京藝術大学蔵

いわさきちひろ (1918-1974)

1918年、福井県武生(現・越前市)に生まれ、東京で育つ。1936年、東京府立第六高等女学校卒業。絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1950年、紙芝居『お母さんの話』を出版、文部大臣賞受賞。同年、松本善明と結婚、翌年、長男猛を産む。絵本などの子どもの本を中心に、新聞、雑誌、カレンダーなどさまざまな印刷メディアに絵を描いた。1974年、肝臓ガンのため55歳で亡くなる。

中谷泰 (1909-1993)

1909年、三重県松阪市に生まれる。20歳のときに画家を志し上京、川端画学校に学び、1930年の第8回春陽会展で初入選。春陽会を通して出会った木村荘八に師事する。春陽会をはじめとする多くの展覧会に出品し、1971年から1977年にかけては東京藝術大学教授をつとめるなど、戦前から戦後にかけての洋画界で重要な役割を果たした。1993年、84歳で亡くなる。

会期中のイベント 手話通訳、要約筆記が必要な方は事前にご相談ください。

記念講演会「いわさきちひろ 母として 画家として」

講師：松本猛(ちひろ美術館常任顧問 横浜美術大学客員教授)
日時：7月30日[土] 午後2時～ *約90分
会場：三重県立美術館地下1階講堂
定員：70名
参加無料/要事前申込(申込締切 7月18日[月・祝])

映画上映会「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」

日時：7月24日[日]
①午前10時30分～
②午後2時～ *上映時間は約90分
会場：三重県立美術館地下1階講堂
定員：各回70名
参加無料/要事前申込(申込締切 7月10日[日])

ちひろの水彩技法体験ワークショップ

「にじみでうちわをつくろう」
講師：原島恵(ちひろ美術館学芸員) [7月16日分]
三重県立美術館スタッフ [8月11日分]
日時：7月16日[土]
①午前10時30分～ ②午後1時30分～
8月11日[木・祝]
①午前10時30分～ ②午後1時30分～
*各回約60分
会場：三重県立美術館地下1階美術体験室
対象：小学生以上(小学生は保護者同伴で)
定員：各回10名程度
参加無料/要事前申込
(申込締切 7月分は7月3日[日]必着、8月分は7月31日[日]必着)

各イベントの申込方法

事前申込が必要です。下記いずれかの方法でお申込みください。申込多数の場合は抽選し、締切後に結果をお知らせします。

- ①当館ウェブサイトの専用フォーム
- ②往復はがき
往信用文面に参加を希望するイベント名と希望日時(ワークショップ/映画上映会)、参加者氏名(1枚につき2名まで)、当日連絡先(電話・メールアドレス)、返信用宛名面に住所と氏名を記入し、当館「ちひろ展イベント係」まで送付。

交通案内

津駅(近鉄・JR)西口より徒歩約10分。または、津駅西口1番のりばより三重交通バス「西団地循環」、「津西ハイタウン行き(ひつみ・つづじ経由)」、「夢が丘団地行き(総合文化センター前経由)」、「総合文化センター行き」のいずれかに乗車約2分、「美術館前」下車徒歩約1分。駐車場も用意していますが、できる限り公共交通機関をご利用ください。



大人も子どもも、ちひろの絵の中であそぼう!

アートユニットplaplaによる展示

インタラクティブ作品の制作をベースに、多様な領域を横断しながら活動するアートユニットplapla(プラプラックス)。

ちひろの水彩技法に着目し、「にじみ」と「白抜き」をからだを使って描く体験型アートの展示を行います。



「絵の具のあしあと」2018年/plapla

次回企画展

開館40周年記念 **岡田米山人と半江展**
2022年9月23日(金・祝) — 11月6日(日)

三重県立美術館 Mie Prefectural Art Museum

〒514-0007 三重県津市大谷町11 TEL:059-227-2100 FAX:059-223-0570
https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/ Follow us on Twitter @mic_kenbi

